

施策の展開 「水産業に関する県民理解の促進と地域環境の整備」

～ 「水産業及び漁業地域の多面的機能の発揮」(条例第8条第1項第5号関係)～

【取組状況・成果】

1 生産から消費までの情報の提供・共有と食育の推進

次世代を担う若年層の水産物に対する理解を深めてもらうため、小学生等を対象にした漁業体験学習等において、水産業改良普及員等が講師を務め、本県の水産業の現状、養殖生物の生態等について指導しました。また、消費者に本県水産物に対する理解を深めてもらうため、本県の養殖水産物等を用いた料理教室などを開催したほか、本県の主要漁業である遠洋まぐろ延縄漁業の知名度向上と気仙沼産船凍まぐろの販路や消費の拡大を図るため、漁協直営店を活用したPR販売を支援しました。

【平成17年度の主な実績・成果】

(1) 水産物の情報提供等による地元消費者の育成

イ 地域水産業を理解しPRしてもらう地域住民からなるサポーターづくりを推進するため、地域の漁業関係者との連携しながら、地域内の親子を対象としてのり養殖等の体験などを行う「プチお魚ソムリエ講座」(3回)及び一般の方を対象として魚の栄養や安全性、調理方法などを学ぶ「水産石巻圏体感塾魚ムリエ講座」(3回)を開催しました。[漁業振興課、石巻地方振興事務所及び水産研究開発センター]

ロ 「気仙沼産船凍まぐろ」の知名度向上と販路や消費の拡大を図るため、宮城県北部鯉鮪漁業協同組合が行う外食店やまぐろ取扱業者を対象とした流通の開拓や、漁協直営まぐろ料理店の活用して行う、一般消費者への安全・安心・国産・天然をキーワードにしたPR販売を支援しました。[気仙沼地方振興事務所]

(2) 子供達の水産物消費の拡大に向けた取組の推進

地域水産業への理解を促進するため、小学生を対象として女性部が実施した地域水産物の料理教室への指導を行いました。[産業人材育成課及び石巻地方振興事務所]

【主な事業】

課名	事業費(千円) [うち県決算額]	事業名
漁業振興課	525 [525]	水産石巻圏体感塾
産業人材育成課	260 [175]	沿岸漁業担い手グループ活動推進事業(再掲) (浜の担い手グループ実践活動促進事業分)

2 漁村地域の景観及び環境の保全

漁村地域が持つ自然環境や景観を守るため、親水機能に配慮した漁港海岸づくりに取り組みました。

【平成17年度の主な実績・成果】

(1) 親水機能に配慮した漁港・海岸づくりの促進

漁港環境整備事業では、松島町磯崎地区において緑地整備・親水護岸等の整備を行っています。この地区では、風光明媚な「特別名勝」松島の区域内にあって豊かな自然と多様な保養・レクリエーション施設があり、多くの観光客が訪れており、都市住民と漁村地域に暮らす人々との交流が図られるよう、その環境整備を行っているものです。[漁港漁場整備課及び仙台地方振興事務所]

平成17年度実績(県事業)

磯崎漁港(親水施設)

護岸(地盤改良) 200m

(2) 漁業系廃棄物の適正な処理とその普及

イ 仙台湾で大量に発生したヒトデ対策のため、仙台市漁業協同組合が実施した海底清掃に対して指導・助言を行ったほか回収したヒトデの有効利用を図るため、たい肥化試験を行いました。[漁業振興課，研究開発推進課，仙台・石巻地方振興事務所，水産研究開発センター，水産加工研究所及び畜産試験場]

ロ 石巻湾海域の漁場において、廃棄物(漁網，ロープ類，一般ゴミ等)のたい積が貝けた漁業や刺網漁業等の生産活動に影響を与えていることから，漁場における廃棄物の実態把握とそれらの回収及び処理を行いました。[漁港漁場整備課及び石巻地方振興事務所]

【主な事業】

課名	事業費(千円) [うち県決算額]	事業名
漁港漁場整備課	52,665 [52,665]	漁港環境整備事業 ヒトデの有効利用に関する研究(再掲) 漁業系廃棄物処理・リサイクル事業(再掲)

3 快適で住みよい地域環境の整備

災害に強く、快適で豊かな漁業地域の生活を実現するため、漁港海岸の保全施設整備，下水道施設等の生活基盤の整備及び海岸を活用した公園等の憩いの場づくり等，漁業地域のインフラ整備を推進しました。

【平成17年度の主な実績・成果】

(1) 漁港及び海岸の防災施設整備の推進

今後高い確率で発生すると予想されている宮城県沖地震等に対応するため、海岸保全施設の整備を推進しました。[漁港漁場整備課及び気仙沼地方振興事務所]

平成17年度実績

気仙沼漁港海岸ほか9か所で護岸や陸閘を整備

(2) 下水道施設等生活基盤の整備，海岸を活用した公園等のインフラ整備の推進

女川原子力発電所から排出される温排水が周辺海域に与える影響を把握するため、「女川原子力発電所周辺の安全確保に関する協定書」に基づく「温排水測定基本計画」に従い、調査・測定を実施しました。[漁港漁場整備課及び水産研究開発センター]

【主な事業】

課名	事業費(千円) [うち県決算額]	事業名
漁港漁場整備課	558,508 [296,558]	海岸保全施設整備事業 温排水影響調査事業

4 都市や農山村との交流促進

県民に本県水産物のサポーターとしての役割を担ってもらうため、都市の住民を漁村地域に招き、水産業への理解の促進を図りました。また、漁業と海洋リクリエーションの共存に向け、ゾーニングや安全のためのルール化を図る、実施地域の協議会の設立を指導しました。

【平成17年度の主な実績・成果】

(1) 漁業地域における都市住民との交流促進

県単位で組織する漁業士会が実施した漁業体験学習，漁協女性部連絡協議会が実施した都市住民と漁村女性の交流事業等及び漁業後継者団体が実施した事業に対する指導・支援を行いました。[漁業振興課，産業人材育成課及び仙台・石巻・気仙沼地方振興事務所]

(2) 海や海洋生物とのふれあいの促進

普段あまり海に接する機会が少ない県内の小学生とその父母及び一般県民を対象とした教育研修事業により、漁業の仕組み，魚介類の知識を深めてもらうための体験学習会及び海藻を利用した染め物講習会を開催し、水産業への理解の醸成を図りました。[産業人材育成課及び水産研究開発センター]

(3) 漁業と海洋レクリエーションの共存のための受入体制づくり

志津川地区において町・漁協・ダイビングショップが、国民の余暇として一般に普及してきているダイビング事業を実施するにあたり、スキューバダイビングの安全対策、海面利調整等を目的としたスキューバダイビング安全対策協議会の設立について、指導・助言を行いました。

なお、官民が一体となり協議会を設立し、スキューバダイビング事業に取り組むのは、東北地方では初めての試みです。[気仙沼地方振興事務所]

【主な事業】

課 名	事業費(千円) [うち県決算額]	事 業 名
産業人材育成課	722 [580]	漁業後継者団体育成事業 教育研修事業

- 主な取組 -

県民を対象とした「海の教室」の開催

～海の生き物と水産業に関する県民理解の促進に向けて～

(関連事業：教育研修事業)

水産研究開発センターでは、漁業の仕組みや魚介藻類等への認識を深めてもらうため、県内の小学生とその父母の皆さん及び一般県民の方々を対象とした体験学習会を開催しています。

1 親子体験学習会

小学生とその父母の皆さん71人が、石巻地区漁業協同組合の組合員の方々の指示に従いながら地びき網漁に挑戦し、12科19種類の魚を漁獲しました。地びき網終了後は、親子一緒に真剣な眼差しで魚を観察しながら名前調べとスケッチに取り組みました。

参加者からは「地びき網でいろんな魚が捕れて楽しかった」、「魚のスケッチが楽しかった」等の感想が寄せられ、親子共に楽しい夏の日となったようです。

(1) 日 時 平成17年7月23日(土) 午前9時30分から午後3時まで

(2) 場 所 石巻市渡波袖ノ浜 水産研究開発センター

(3) 参加人数 71人 (親子25組 子供39人 大人32人)

(4) 体験内容

イ 地びき網漁(2回)

ロ 地びき網漁で漁獲された魚の観察と名前調べ及びスケッチ

ハ 水産研究開発センターの施設見学



一生懸命網をひく参加者



熱心に魚をスケッチする子供たち

2 海洋講座

一般県民の方を対象に、魚介類に生息場を提供し水質を浄化する働きを持つ海藻への理解を深めてもらうため、本吉町のまんぼう工房の皆さんを講師に招き、海藻染め体験講座を開催しました。

(1) 日 時 平成18年3月14日(金) 午後1時から午後3時まで

(2) 場 所 水産研究開発センター

(3) 参加人数 24人

(4) 内 容 緑藻類(ミル・アオサ)から抽出した染液でストールの絞り染め体験
海藻(藻場)の働きと大切さについて説明



絞り染め体験を行う受講生の皆さん



鮮やかな出来映えに感激

マリンチャレンジスクールの開催

(関連事業：沿岸漁業担い手活動支援事業)

海や水産業に関心のある県内の中学生を対象として、水産業の初歩的技術や知識の習得、漁業体験等を通じて、本県の水産業に対する理解を深め、水産業従事者の育成に資する目的でマリンチャレンジスクールを県内2か所で開催しました。

1 石巻地域

- (1) 事業実施主体 宮城県石巻地方振興事務所水産漁港部，宮城県石巻教育事務所
- (2) 開催年月日 平成17年7月26日(火)から7月28日(木)まで
- (3) 開催場所 石巻市内
- (4) 参加者 県石巻地域の3中学校から13人参加
- (5) 内容

- イ 宮城丸船内見学
- ロ 宮城の水産業の紹介
- ハ 超低温冷蔵庫，製氷工場，宮城県無線公社見学
- ニ 宮城県水産高等学校の紹介
- ホ 練り製品等の加工品製造
- ヘ 地曳網体験実習と採れた魚の検索
- ト 宮城県漁業士(2人)による講義

受講生のアンケート調査の結果，宮城丸の見学，地曳き網及び超低温冷蔵庫の人气が好評でした。また，進学については，水産関係高校を希望している生徒が多く，将来の進路希望については漁船漁業，会社員，沿岸漁業の順に多くなっていました。

宮城丸での開講式



2 気仙沼地域

- (1) 事業実施主体 宮城県気仙沼地方振興事務所水産漁港部，宮城県志津川教育事務所
- (2) 開催年月日 平成17年7月26日(火)から7月27日(木)まで
- (3) 開催場所 気仙沼市内
- (4) 参加者 気仙沼地域の8中学校から28人(うち女子5人)参加
- (5) 内容

- イ 気仙沼の水産業について
- ロ 海藻おしば体験
- ハ 気仙沼向洋高校の紹介，操船シミュレーター体験，
- ニ 気仙沼魚市場見学，宮城県漁業士(1人)による講義，アンケート，感想文，閉講式

受講生のアンケート調査の結果，操船シミュレーターやロープワーク教室など体験型の科目が好評でした。

将来の進路として水産関係学科を希望する生徒が最も多く，水産業への関心が高いものでした。



気仙沼湾の環境についての講義

効率的で安全な漁港づくり

(関連事業：海岸保全施設等整備事業)

今後、高い確率で発生すると予想されている宮城県沖地震等に対応するため、漁港海岸保全区域内にある、堤防・護岸・陸閘等の海岸保全施設を整備し、県民の安全安心な生活を確保するものです。

1 事業概要

事業主体 宮城県
事業内容 宮城県が管理する漁港海岸保全区域内において、高潮・波浪・津波による災害から人命や財産を防護するため、堤防・護岸・離岸堤等の海岸保全施設を整備するもの。

2 平成17年度事業内容

- | | |
|-------------|---------------------------------|
| (1) 気仙沼漁港海岸 | 護岸 15.5m
陸閘製作据付(アルミ合金製横引戸)1基 |
| (2) 荒浜漁港海岸 | 離岸堤 37m |
| (3) 鮪立漁港海岸 | 護岸 90m
陸閘製作据付(アルミ合金製横引戸)3基 |
| (4) 志津川漁港海岸 | 避難用階段設置 1カ所 |

【施行実績】 気仙沼漁港海岸 小々汐地区
陸閘製作据付(アルミ合金製横引戸)1基

施工前



施工後

